

中学校美術

1 中学校美術科の目標と内容の改善について

(1) 目標の改善について

「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」

- ① 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。(知識及び技能)
- ② 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- ③ 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。(学びに向かう力、人間性等)

(2) 内容の改善について

- ① 「A表現」の項目を発想や構想に関する資質・能力と技能に関する資質・能力の二つの観点から整理。
- ② 「B鑑賞」の内容を、アの「美術作品など」に関する事項と、イの「美術の働きや美術文化」に関する事項に分けて明示。
- ③ [共通事項]
 - ア 感性や造形感覚などを高めていくことを一層重視し、[共通事項]を造形的な視点を豊かにするために必要な知識として整理。
 - イ 表現や鑑賞の学習に必要な資質・能力を育成する観点から改善。
 - ウ 「内容の取扱い」において、[共通事項]の指導に当たって、生徒が多様な視点から造形を豊かに捉え実感を伴いながら理解することができるように配慮事項を明示。

2 GIGAスクール構想のもとでの中学校美術科の指導について

(1) 美術科、芸術科(美術、工芸)における学習指導要領とICT活用の関係

① 「A表現」

ア 視聴覚機器などを用いて表現方法を提示するなど、ICTを活用するとともに、美術の表現の可能性を広げるために、効果的に写真・ビデオ・コンピュータなどの映像メディアの積極的な活用を図ることが求められる。

イ 映像メディアによる表現は、今後も大きな発展性を秘めており、これらを活用することは表現の幅を広げ、様々な表現の可能性を引き出すために重要であるとともにアイデアを練ったり編集したりするなど、発想や構想の場面でも効果的に活用できるものである。

ウ 生徒の制作の過程や作品をICT端末のカメラ機能を使って撮影し、クラウドなどに保存して振り返りの学習に活用したり、作品の写真を大型モニターなどに映し出して発表したりするなどの活用も考えられる。

② 「B鑑賞」

ア 実物と直接向かい合い、作品のもつよさや美しさについて実感を伴いながら捉えさせることが理想である。

イ 実物と直接向かい合うことができない場合は、大きさや材質感など実物に近い複製や作品の特徴がよく表されている印刷物などとともに、ICT端末やクラウドなどに保存した画像や映像などを使い、効果的に鑑賞指導を進めることが必要である。

ウ 鑑賞する作品や作者について、それぞれの生徒が情報通信ネットワークを活用して調べたり、美術館、博物館などのWebページを閲覧したりするなどして、生徒の見方や感じ方を広げたり、深めたりするような活用も考えられる。

3 美術科における学習評価について

(1) 各観点の評価のポイント

① 「知識・技能」(知識)の評価

表現及び鑑賞の活動を通して、〔共通事項〕に示す「造形的な視点を豊かにするための知識」として、形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果を理解することや、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解することについて評価するものである。

② 「知識・技能」(技能)の評価

造形的な見方・考え方を働かせて、発想や構想をしたことなどを基に表すために、材料、用具などの表現方法などを身に付け、感性や造形感覚、美的感覚などを働かせて、表現方法を工夫し創造的に表すなどの技能に関する資質・能力を評価するものである。

③ 「思考・判断・表現」(発想や構想)の評価

造形的な見方・考え方を働かせて、自己の内面などを見つめて、感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生み出し、それらを基に創造的な構成を工夫したり、目的や条件などを基に主題を生み出し、分かりやすさや使いやすさと美しさなどとの調和を考え、構想を練ったりするなどの発想や構想に関する資質・能力を評価するものである。

④ 「思考・判断・表現」(鑑賞)の評価

造形的な見方・考え方を働かせて、自然や生活の中の造形、美術作品や文化遺産などから、よさや美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫、生活や社会の中の美術の働きや美術文化について考えるなどして見方や感じ方を広げたり深めたりする鑑賞に関する資質・能力を評価するものである。

⑤ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

ア 生徒が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」を身に付けようとしたり発揮しようとしたりすることへ向かう、主体的な美術への学習に対する態度を評価するものである。

イ 表現活動では、発想や構想を練るためにアイデアスケッチを熱心に繰り返し描いたり、創造的に表す技能を働かせるために絵の具で色を試したり塗り重ねたりするような能動的な姿が授業の中で現れることがある。

ウ 表現活動においては、机間指導等の際にこのような試行錯誤を繰り返し粘り強く取り組んだり、よりよい表現を目指して構想や技能を、工夫改善したりしていく様子などの姿を捉えながら指導と評価を行うことが大切である。

エ 鑑賞活動では、生徒が主体的に作品などの造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深めようとしていく姿が見られることがある。

オ 鑑賞活動においては、作品などを鑑賞し、造形的な視点を活用しながら造形的なよさや美しさを感じ取ろうとしたり、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えようとしたりするなどの意欲や態度を高めることが大切である。

4 参考となる資料等について

(1) 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校美術

(国立教育政策研究所教育課程研究センター 令和2年3月)